

# 障害の有無に関わらず、 子育てを総合的に支援できる拠点づくり ～教育・保育・療育の協働を効果的にすすめるために～

社会福祉法人 萌葱の郷 子育て支援センター長 五十嵐 猛

萌葱の郷では、子育て総合支援センターとして幼保連携型認定こども園、地域子育て支援拠点事業、児童発達支援センター、放課後デイサービス、保育所等訪問支援事業、相談支援事業を同一敷地内にて一体的に運営し、地域に暮らしている子ども一人一人の月齢や生活、器質的な特性に配慮した教育・保育・療育をワンストップで提供できる体制を整えています。

## 障害・就労・専門性の ハードルを下げる

身近な地域で早い段階から支援を受けることが全国的に望まれています。そのためには数々のハードルがあります。私たちは、当センターの運営を通して以下の3つのハードルを下げる事に成功しました。まずは「障害」へのハードルです。「障害」への理解や受容は簡単にできるわけではありません。そこで私たちは療育機関を子育て機関に隣接することでハードルを下げる事ができました。次は「就労」へのハードルです。当センターでは保護者が仕事を制限しなくても子どもを早期から療育に通わせる事ができます。なぜなら、隣に保育園機能を持している認定こども園があるからです。小学校への接続も認定こども園の幼稚園機能を活用することで手厚い準備をすすめる事ができており、子育て支援センターの機能である親子教室を開催しながら保護者が自分の休暇に合わせて子育ての悩みや障害への理解を行うための相談支援も提供しています。第



3のハードルは「専門性」です。「保育士不足」等の人材不足が進む中、子どもの最善の利益を守るためには職員の確保や育成が欠かせません。当センターは臨床心理士や作業療法士、看護師、社会福祉士などの専門家が保育士や幼稚園教諭、児童指導員を囲んで教育保育や療育を提供しているために他業種が協働しやすい環境になっています。このように相談できる専門家が周りに居ることは職員の働きやすさやスキル向上にもつながっています。



## 連携の効果 子どもの成長が楽しく

当センターを利用している保護者からは「周囲から特別な目で見られることへの抵抗が和らいだ」「両園に通い始めてから、子どもの成長がより楽しめるようになった」等の感想をいただいております。「障害」へのハードルが和らいでいることや連携の効果を感じています。また、「支えてくれる人たちがたくさんいることが仕事の励みになっている」「困ったらいつでも相談できる事で安心した」等、「就労」も含めて前向きに子育て



ができています。職員からは「保育園で出来なかつた個別支援を児童発達支援センターで学べた」、逆に「こども園でこどもの発達を促す集団の力を知った」等の感想があり、広い視野で発達を捉える力が育っている様子がうかがえます。

こうした環境は発達障害への合理的配慮をベースにしながら「ていねいな教育保育」をすすめるべく、それがこどもの健やかな発達につながるだけでなく、保護者や職員の安心や発達の喜びにも相乗効果で影響を与えてくれます。認定こども園と児童発達支



援センターの使い分けも進めやすくなり、ひとり一人の発達段階に応じて集団による教育と個別の発達支援や心理的ケアの調整も行いやすくなりました。例えば、初めは児童発達支援センターを週4日の利用にしても、徐々にこども園に移行していきながら最終的には週1日の利用や完全移行にしていく等、支援計画の調整を行いやすくなっています。

## 近くに必ず仲間がいる

現在、こどもの発達を保障するために関係する機関や施設が協働



することが期待されています。この度は当センターを紹介させていただきましたが、皆様の近くにも想いのある人が集まって理想的な支援が展開されているはず。私達も日本自閉症協会から、同じ想いを持つ人はひとりではなく、近くに必ず仲間がいること、そして子育てを通して地域福祉を育み、全国で情報を伝え合いながら支え合う大切さを学びました。皆様のお励みをお願いします。

